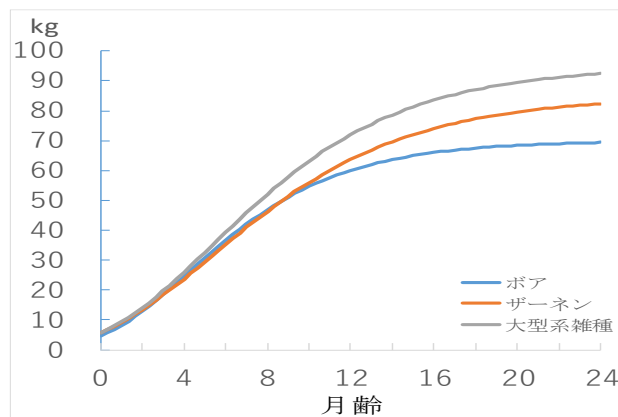


7. その他

(1) 山羊の出荷時期

成長曲線を見るとボア種は早熟で12ヵ月齢には成長が停滞しますが、ザーネン種や大型雑種は12ヵ月齢以降も緩やかに上昇し続け、20ヵ月齢程度から成長が停滞します。このことから、ボア系山羊は10～12ヵ月齢、ザーネン系や大型雑種の出荷時期は20ヵ月齢あたりが適正な出荷時期であると考えられます。

粗飼料多給による多頭飼育では、ボア系山羊を11ヵ月齢で55kgに増体し早期出荷できれば最も収益性が得られます。しかし、群全体を安定して育成し上記の目標を達成するには熟練の技術が必要です。そこで、本資料では多頭飼育の第一歩として、セリで高値が付きやすく、目標が達成しやすい12ヵ月齢で56kgを増体の目標として設定しています。



山羊の成長曲線

(2) 改良の考え方（参考例）

本県の山羊は交雑種がほとんどを占めているため、改良について一律に考えることは困難です。沖縄県畜産研究センターにおいて品種・雑種間を交配し生産した育成山羊12ヵ月齢時点における特徴、体重を下記に示します。改良の参考としてお役立てください。

- ① ザーネン種 ♀ × ボア種 ♂
= 雄は大きく雌はやや小さい。参考体重：雄 55～65kg 雌 50kg 前後
- ② ザーネン種 or 大型雑種 ♀ × ヌビアン種 ♂
= 体高は高いが肉付きが悪い。参考体重：雄 55～65kg 雌 55～60kg
- ③ ボア種 ♀ × ヌビアン種 or ザーネン種 ♂
= 雌雄ともに小さめで脂肪がつきやすい。参考体重：雄 50kg 前後 雌 40kg 前後
- ④ 大型雑種 ♀ × ボア種 or ボアハーフ ♂
= 大きく肉付きが良い。参考体重：雄 60～65kg 雌 50～55kg 前後
- ⑤ 大型雑種 ♀ × 大型雑種 ♂
= 基本的に大きい但不安定。肉付きは悪い。参考体重：雄 60～70kg 雌 50～55kg



掛合わせ①（58kg）



掛合わせ②（62kg）



掛合わせ③（51kg）



掛合わせ④（60kg）